

科目名	プログラミング演習Ⅳ						
科目名(英)							
単位数	5単位	時間数	84時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	ITエンジニアとして開発業務に従事		
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科アドバンス3年						
授業概要	Pythonの基礎的な文法を学び、ソースコードをもとにシステムの脆弱性について実例を確認しながら理解する						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				セキュリティ演習に利用されるPython言語の基本文法を使用できる	
		○				インターネットの主要な攻撃手法を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	つくりながら学ぶ！ Pythonセキュリティプログラミング マイナビ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～3	Pythonチュートリアル				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	4～6	Pythonチュートリアル				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	7～9	ネットワークセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	10～12	ネットワークセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	13～15	Webセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	16～18	Webセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	19～21	Webセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	22～24	暗号				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	25～27	暗号				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	28～30	ファジング				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	31～33	ファジング				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	34～36	無線技術とセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
	37～39	無線技術とセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。	
40～42	仮想化技術とセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
43～45	仮想化技術とセキュリティ				事前にテキストの該当範囲を読んでおくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	課題・レポート	○	○		◎		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。授業態度は意欲として出席状況も鑑みる。						

科目名	卒業研究A					
科目名(英)						
単位数	18単位	時間数	280時間	担当者	久家政人	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	ITエンジニアとして開発業務に従事	
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科アドバンス3年					
授業概要	在学中に学んだ知識、技術を生かし、新たなITソリューションの開発および技術研究を行う。社会問題の解決や、最新技術の可能性を探求し、成果物としてシステムを構築する。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				システム開発における「企画」「設計」「開発」「テスト」「検証」ができる
	○					グループでの開発に必要な情報共有をスムーズに行うことができる
		○				技術的課題に挑み、調査、検証を繰り返し解決することができる
				○		グループ内での役割を全うし、さらに他のメンバーへのサポートもできる
テキスト・教材 参考図書	個人開発のための Webサービス公開マニュアル 秀和システム AWSでつくる AIプログラミング入門 秀和システム					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1～3	チーム編成、研究テーマ検討①			最新技術の情報収集および、社会の課題を調査	
	4～6	研究テーマ検討②				
	7～9	研究テーマ検討③				
	10～12	研究テーマ検討④				
	13～15	研究テーマ検討⑤				
	16～18	企画書作成①				
	19～21	企画書作成②				
	22～24	企画書作成③、企画書レビュー			企画書まとめ作業、および企画書レビュー準備	
	25～27	企画書レビュー、企画書修正				
	28～30	企画書再レビュー				
	31～33	基本設計①				
	34～36	基本設計②				
	37～39	基本設計③			基本設計レビュー準備 利用技術についての資料収集等	
	40～42	基本設計レビュー、基本設計書修正				
	43～45	詳細設計①				
	46～48	詳細設計②				
	49～51	詳細設計③				
	52～54	詳細設計④				
	55～57	詳細設計⑤				
	58～60	詳細設計⑥				
	61～63	詳細設計⑦				
	64～66	詳細設計⑧				
	67～69	詳細設計⑨			詳細設計レビュー準備	
70～72	詳細設計⑩、詳細設計レビュー					
73～75	開発①					
76～78	開発②					

	79～81	開発③					
	82～84	開発④					
	85～87	開発⑤					
	88～90	開発⑥					
	91～93	開発⑦					
	94～96	開発⑧					
	97～99	開発⑨					
	100～102	開発⑩					
	103～105	開発⑪					
	106～108	開発⑫					
	109～111	開発⑬					
	112～114	開発⑭					
	115～117	開発⑮					
	118～120	開発⑯、検証①					
	121～123	開発⑰、検証②					
	124～126	開発⑱、検証③					
	127～129	開発⑲、検証④					
	130～132	開発⑳、検証⑤					
	133～135	開発㉑、検証⑥					
	136～138	開発㉒、検証⑦					
	139～140	開発㉓、検証⑧、最終プレゼン	プレゼン資料準備、練習を行う事				
評価方法	(1)レビューを数回実施する。(2)プレゼンテーションによる評価会を実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		○		◎		60%
	成果物提出	○	○		◎		20%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。パソコン持参のこと。提出物については、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。授業態度は意欲として出席状況も鑑みる。						

科目名	就職実務Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科アドバンス3年						
授業概要	内定獲得に向けて希望企業に合格するよう、履歴書作成、筆記試験対策、面接対策など指導を行う就職に備えてIT業界の未来予測を把握する						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自己分析を行い、自らの強みをPRすることができる	
	○					面接において、志望動機、自己PRを話すことができる	
	○					企業分析を行い、企業の強みや、将来性を理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	ITロードマップ 2020年版 東洋経済新報社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応①			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	2	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応②			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	3	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応③			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	4	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応④			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	5	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑤			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	6	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑥			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	7	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑦			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	8	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑧			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	9	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑨			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	10	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑩			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	11	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑪			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	12	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑫			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	13	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑬			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
	14	求人紹介、企業分析、自己分析、個別対応⑭			希望企業の新卒採用情報の収集 就職活動の準備を行う事		
15							
評価方法	成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート				○		30%
	出席状況				○		30%
	授業態度				○		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅢ						
科目名(英)	Business CommunicationⅢ						
単位数	1単位	時間数	28時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科アドバンス3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・IT技術者が、顧客の要望や課題を把握し、技術的の裏打ちされた最適な提案ができるようになる ・クライアントに伝わる文章表現力を磨くことができる ・ビジネスを進める上で、論理的に物事を考え、実行する力が身に付く 						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					自分のライティングスキルをチェックし、ビジネスに通用する文書になる	
	○					論理的に物事を考えることができる	
	○					伝わるビジネスメールを書くことができる	
テキスト・教材 参考図書	技術者のためのテクニカルライティング入門講座(株式会社翔泳社 刊)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	テクニカルライティングとは(授業導入)				授業内容に係るレポート作成および提出	
	2	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識					
	3	第1章 ロジカルライティング×テクニカルライティング活用の基礎知識				授業内容に係るレポート作成および提出	
	4	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック					
	5	第2章 わかりやすく、簡潔な文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	6	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック					
	7	第3章 読み手に伝わる文章を書くテクニック				授業内容に係るレポート作成および提出	
	8	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～					
	9	第4章 読みやすさを高める文章フォーマット～文章、表記のルール～				授業内容に係るレポート作成および提出	
	10	第5章 実践編 ユーザーマニュアル・取り扱説明書					
	11	第6章 実践編 提案書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	12	第6章 実践編 提案書					
	13	第7章 実践編 障害報告書				授業内容に係るレポート作成および提出	
	14	第8章 実践編 社外メール文				授業内容に係るレポート作成および提出	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	出席状況・授業態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅣA						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 4年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅣA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	久家政人		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 4年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						